



Milk Hall Times 22 nd

# BRIGHT

ミルクホールの扉を開けるとまず目に入ってくるのがスタンドグラスの窓。枠から外されてはいるけれど、今尚、色鮮やかに私を不思議な世界に引き込むあれは多分、鋼線にガラスをはめ込む方法で、時々見かけるテラリウムや装飾品などに見られる半田付けの手法よりは多少難しい処理の仕方を用いてあるようだ。ガラスの方は割合と単純だが、スタンドグラスとは見たために似合わず手のかかる仕事だ。

しかし、一度その世界に振れるとガラスの織りなす光の魔法から逃れることはできない。店に入り込む外の陽かりに敏感に反応する様は一枚の羽目板をさながら生きている美しい女性の様に見える。

ミルクホールに住む光もとても柔かい。そしてその光の中にピアノや古いランプなどが置かれ店の中を魅力的に見せてくれる。それ等を見ていると私を知らず知らず幼い頃へと誘ってくれる。そんなスタンドグラスのような優しさが私がミルクホールを好きな理由である。



お知らせ

MILK HALLより

★8月は無休で営業致します。  
9月は5日～7日まで勝手ながら休業致します。  
8日より通常通り月曜定休になります。

★オークションパーティーは、毎奇数月(1・3・5・7・9・11)に開催いたします。

参加費1500円、掘出物のアンティークに出会えます。

入札式オークションは、毎月品物が変わります。

詳しくはINFORMATIONに掲載しております。または、カウンターでお訪ね下さい。

# NOBLE



先日、予期せぬ体験をした。公私共に大変お世話になっている、Eさんからの早朝の電話の内容はこうであるとにかく急ぎの仕事なので、東京まで来て欲しい。出向く先は・・・の家族会館でもうHさんは、自宅で待っている。という事で相変わらずの早口でこちらはちっとも要領を得ない。とにかく行けばなんとかなるだろうと、早速出向く事にした。公的な仕事という事なので、厚生年金ホールとか福祉会館とかそんなところだろうと想像できた。途中Hさんを乗せ、霞が関へと向った。『相変わらず、都内の道は混雑しますねえ』と渋滞する道路を眺めながら面識の浅いHさんと話題を捜す。

『ところでその・・・の家族会館というのは』と色々話を聞いてみるとなかなか話が噛み合わない。よく聞いてみると厚生年金ホールでも福祉会館でもなく、家族会館は『華族会館』の間違いである事がようやく理解できたのである。その雲上の人々は、皇居などを一望できる都心の最新式の高層ビルを持ち、その最上階にゆったりとしたサロンを構え、優雅にまさに下界を見下ろしつつピリヤードや囲碁、麻雀に興じているところだった。そこで紹介された方々の名刺には何々園様だの何々久爾様だの由かしい名前ばかりである。聞けば、元貴族院議長殿とか、元内務大臣殿とかほとんど世が世なら・・・という人達。丁重に挨拶と簡単な打ち合わせを済ませ、そそくさと退散する。

Hさん宅に戻ると、Eさんは居間でくつろいだ様子で足などを伸ばし、H家の古いアルバムを引っ張りだして眺めているところだった。『へー、元英国大使ねえ。たいしたものねえ』としきりと感心している。実は今全く知らなかったのだが、私も1～2度の面識のあったHさんも元男爵で、御祖父様は明治政府の英国大使、奥様は元子爵の出というのだから世の中話は聞いてみないとなんか面白い物である。そこでしきりと昔話や、今の華族様たちの話を伺う。一同『世が世ならねえ』『そう、世が世ならねえ』『優雅なものねえ』と古き良き時代へ思いを馳せる。『でも、まあ世が世なら、戦犯だの革命だのって大変でしたでしょうねえ。』

そんな話に相違をうちながら私の頭の中はどんどん勝手な想像が広がって、鹿鳴館での舞踏会や、身分違いの悲恋だの、戦いに破れ涙を呑む落武者や、ひとつふたつと蹴鞠に興じるお歯黒の公家達の姿が目には浮かんで消える。そして今しがた別れを告げてきた方々の顔を思い浮かべる。あの人達の生きて来た時代もさる事ながら、日本の長い歴史を思うと感慨をうけずにはいられない。古くは平安の時代の公家の子孫、皇族の血を引く人達、そして、戦国に生き残り得た戦国大名の子孫である徳川時代の藩主達の子孫、彼らがこの現代に生き、華族としてある特殊な世界を守っている。まるで歴史の証人たらんとするように、元貴族としての血統を守りさらに子孫へと伝えようとしている。彼らの先祖は互いに反目しあった事もあつたらう、争い戦った事もあつたらう、静かな時を優雅に共用し暮らしている日確かに今の日本は『平和』である。『そろそろ失礼致しますよう。』というEさんの言葉で一同腰を上げる。『お見送りは結構ですがから』と言うにもかかわらず門の所でHさんは、ご夫婦揃って私達の車が出るまで深々と挨拶なさったのであった。



# COLUMN



うちの旦那様は、猫好きである。が、少々変わり者なので、普段はよく猫をけとばしながら家の中を威張って歩き回っている。けとばすぐらいは朝飯前で、時にはしっぽを掴まれて逆さ吊りの目にあう事もある。それでも家族全員で旅行に出掛ける時など、一番猫の食生活に気をつかうのも旦那様である。猫の方も今日はまずいなというような時には、避けて通っているようだ。ご機嫌が良い時を見計らっては甘えて見せる。夕べは大変ご機嫌で、猫の蚤を探ってやったり、ブラシを掛けてやったり、さすがの猫も居心地悪そうにしながら、いざという時の身構えをしてとりあえずおとなしく甘えている。最後には寝床にまで連れてきてよよししながら猫撫で声で話し掛けている。シュガーちゃん?『美・酒・潤・漫』で言ってごらん??にゃぁじゃないよ。さ、言ってごらん?

うちの旦那様は猫好きだけれどやっぱり変わり者である。